

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和3年度病害虫発生予報第6号(9月)
令和3年度病害虫発生予察注意報第9号
令和3年度病害虫発生予察注意報第10号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和3年度病害虫発生予報第6号(9月)

令和3年9月3日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや多い	県全域	8月下旬の早期栽培での発生量はやや多い 8月に葉いもち感染好適日が複数回確認された 中生の主要品種は穂いもちに強い 9月の降水量はほぼ平年並 9月の気温はほぼ平年並	+ + - ± ±
	紋枯病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
	トビイロウンカ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 7月上旬の飛来予測回数はやや多い	± +
	ツマグロヨコバイ	少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない	-
	コブノメイガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	フタオビコヤガ	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない	-
	斑点米カメムシ類	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い	+

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温はほぼ平年並	± ± ±
	オオタバコガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温はほぼ平年並	± ± ±
	吸実性カメムシ類 (ミナミアカメムシ)	平年並	県全域	8月下旬の水稻でのミナミアカメムシの発生量は平年並	±

・防除対策

〔イネ・いもち病（穂いもち）〕

半田市、岡崎市（山間部）及び田原市の一部ほ場において、穂いもちの発生が確認されました。穂いもちの発生が確認されていないほ場でも、葉いもちが上位葉で発生している場合は、穂いもちに移行するおそれがあります。穂揃期にダブルカットスタークル粉剤DLやカスミン液剤などで防除しましょう。

〔イネ・トビイロウンカ〕

第3世代幼虫の成長期である9月から10月にかけて坪枯れが発生する可能性があります。坪枯れの初期症状が確認された場合は、防除を実施しましょう。また、収穫適期がきたら速やかに収穫しましょう。詳細は本日発表の「ウンカ類情報第7号（トビイロウンカ）」を参照してください。

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

8月下旬の調査における本田すくい取り調査で、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類、イネカメムシが多く捕獲されています。畦畔、本田での発生を確認したら、直ちに防除を行いましょう。防除薬剤については8月3日発表の「斑点米カメムシ類情報第2号」を参照してください。

・留意事項

ダイズほ場で、シロイチモジヨトウの寄生が確認されています。また、西尾市のダイズほ場に設置したフェロモントラップにおいて、シロイチモジヨトウが多く誘殺されています。今後の発生状況に注意しましょう。防除薬剤については、8月17日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第8号」を参照してください。

ダイズほ場において、既に吸実性カメムシ類の発生を確認しています。子実肥大初期（開花30～40日後）に防除を行いましょう。

7月下旬に実施した巡回調査において、スクミリンゴガイの発生ほ場率は過去10年間で2番目に多い状況でした。発生が見られる地域では、越冬貝に対する対策を行いましょう。詳細は、本日発表の「スクミリンゴガイ情報第2号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の気温はほぼ平年並	- ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	8月下旬のイヌマキにおける発生量はやや少ない 8月下旬の被害果率は平年並 黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	－ ± ±
モモ	せん孔細菌病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 8月の降水量は多く、強風を伴う雨も発生した 9月の降水量はほぼ平年並	± + ±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量はほぼ平年並	+ ±
カキ	炭疽病	多い	県全域	8月下旬の発生量は多い 9月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	うどんこ病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯における誘殺数はやや多い 多くの地域でヒノキ林から離脱しており、9月以降も果樹園に飛来する個体が多くなると予測	+ +

・防除対策

[モモ・せん孔細菌病]

8月17日発表の「モモせん孔細菌病情報第1号」を参考に秋季防除を実施しましょう。

[ブドウ・べと病]

早期落葉および次作の越冬伝染源量を減らすため、収穫後にICボルドー48Qなどで秋季防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

[カキ・炭疽病]

本日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第9号」を参照してください。

[果樹共通・カメムシ類]

本日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第10号」を参照してください。

・留意事項

チャノキイロアザミウマの防除適期は成虫発生ピーク時です。下表を参考に適期防除を実施しましょう。

表 アメダス観測地点における有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第6世代	8/30	8/28	8/24	8/24	8/31	8/31	8/27	8/28	9/6	8/27	第4世代 8/23
第7世代	9/19	9/17	9/11	9/10	9/20	9/20	9/15	9/16	9/28	9/14	第5世代 9/16
第8世代	10/18	10/15	10/4	10/2	10/23	10/21	10/10	10/11	11/2	10/9	第6世代 -

各地のアメダス平均気温から予測（第6世代から第8世代まで）。

9月2日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キャベツ	黒腐病	やや少ない	県全域	前年11月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量はほぼ平年並	－ ±
キャベツ ハクサイ ダイコン	コナガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
	ハイマダラノ メイガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の気温はほぼ平年並	＋ ±
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温はほぼ平年並	± ±
	シロイチモジ ヨトウ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温はほぼ平年並	± ＋ ±
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温はほぼ平年並	＋ ±

・防除対策

[キャベツ、ハクサイ、ダイコン・ハイマダラノメイガ]

キャベツ及びハクサイは、育苗期後半や定植時に粒剤や灌注処理剤で防除しましょう。

ダイコンは、は種時に粒剤などで防除しましょう。

定植後はトルネードエースDFやアニキ乳剤などで防除しましょう。

[野菜共通・シロイチモジヨトウ、オオタバコガ]

シロイチモジヨトウは8月17日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第8号」、オオタバコガは8月3日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

・留意事項

現在、フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は平年並ですが、8月の中旬に誘殺数が多くなった地点があります。ほ場をよく観察し、幼虫を見つけたら速やかに防除しましょう。また、本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。

トマトやミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類の防除を徹底しましょう。感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

イチゴでは、7月下旬の巡回調査で炭疽病の発生が多い状況でした。育苗ほで炭疽病の発生がある場合は、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は症状がなくても同様に処分しましょう。定植には発病株や発病が疑われる株は絶対に使用しないようにしましょう。8月3日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第7号」を参考にしてください。

イチゴの育苗ほでハダニ類の発生量が多いほ場があります。本ほにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
	白さび病	平年並	山間部	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	多い	県全域	8月下旬の発生量が多い	+
	ハダニ類	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の気温はほぼ平年並	± ±
	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温はほぼ平年並	± ±
	オオタバコガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は少ない フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温はほぼ平年並	- + ±

・防除対策

[キク・アブラムシ類]

トランスフォームフロアブルやウララ50DFなどで防除しましょう。

[キク・ハダニ類]

カネマイトフロアブルやアグリメックなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション防除を行いましょ。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台9月2日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込みです。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

[気温] 低い : 30% 平年並 : 30% 高い : 40%

[降水量] 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

[日照時間] 少ない : 40% 平年並 : 30% 多い : 30%